

町小だより

令和4年
1月21日
No. 663
御免町小学校

「年賀状」に思う

校長 藤井 聡

新年あけましておめでとうございます。

新しい年がやってきました。気持ちも新たに歩みを進めてまいります。皆様には、様々なところでお世話になります。よろしくお願い申し上げます。

昨年1月の学校だよりでは、大雪で歩道確保ができない状況の中、当校児童のためにと除雪に駆けつけてくださった新発田市役所の方の「子どもたちの笑顔を思い浮かべながら～雪をかけ！」という熱い言葉の紹介をさせていただきました。覚えていらっしゃるでしょうか。そして、文末では、「血の通った仕事、プロ意識、カッコいい生き方・・・こんな素敵な大人がいることを子どもたちにも伝え、その思いや生き方に触れさせたいと思いました。」と結んでいます。私は、今でもあの光景が目に焼き付いていますし、1年経っても感謝の念は消えません。人と人は、理屈や計算ではなく、『思い』でつながっているということ子どもたちに教えることができた温かいエピソードです。

今年、最初に御紹介したいのは、「年賀状」にまつわるエピソードです。日本に昔からある習わしとも言える年賀状。学校にも子どもたちからたくさんの年賀状が届きました。「校長先生、ぼくは勉強をがんばります」「また、おもしろい話をしてください」など、ほんの一言ですが、子どもたちの『思い』が感じられるものです。住所が書いていない子には、直接教室へ持って行って手渡しましたが、「やった～！」と言って喜ぶ姿がなんとも可愛らしく思えました。

先日、校長室に1本の電話がありました。子どもたちが校外学習でお世話になった地域の方からです。ひとしきりお話をした後、「ところで、校長先生・・・」と、本題を切り出されました。「校長先生、今年の元旦は気分がよかったです。御免町の子どもたちから年賀状が届いたんです。」「今まで、こんなことしてもらったことはありません。初めてです。」というものでした。今年度は、NIEの取組も含め、子どもたちに対して、『人の思いや生き方を学ぶ』ことをテーマにして、教科の学習をはじめ、道徳や特別活動などを展開しています。総合的な学習の時間においても地域の方を特別講師にお迎えしたり、商店や施設に出向いて、そこで出会いのあった方々から『人の思いや生き方』を学んだりしてきました。電話の主は、そんな風に子どもたちとかかわりのあった方なのです。年賀状には、学ばせていただいたことへのお礼や健康を気遣うようなことが書いてあったそうです。この話を伺って、嬉しく思いました。年賀状を出した子どもたちは、本当に『人の思いや生き方』を学んだのだと思いました。子どもたちからもらった年賀状が嬉しいのは、儀礼的なものではなく、心がこもっているからです。そして、何より、自分のことを思ってくれたことが嬉しいのです。年の初めに届いた年賀状に、これから始まる1年に対する期待感を膨らませることができました。今年も「主役は子ども！」の学校経営をしてまいります。